

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の職員が意見を出し合い、独自の理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しく入職した職員に対し、管理者が会議の場や会話の中で理念の説明をしています。職員は理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時家族に対し理念等を説明し理解を得られるよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	展覧会や納涼祭を企画・開催し、地域の方々に来所していただくきっかけをつくっている。近隣の公園等に散歩に出掛ける際、入居者様が近所の方々と挨拶して頂ける関係を築いている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	展覧会や納涼祭の開催時は、民生委員や老人会、婦人会の方々全員に招待状を出し、入居者様との交流を図って頂いている。	○ 推進会議の席で、老人会の会長様より、可能であれば「老人会の会合(カラオケ等)にも顔を出してもらっても良いです。」との言葉を頂いているので、参加させて頂く方向で検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアを受け入れ、家族の見学等を積極的に受入れている。また、施設のサービス内容を記載したチラシを作成し、近隣の家配布し、支援を必要としている方の力になれるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を真意に受止め、意義を理解し、会議等で話し合いを持ち改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では管理者のみならず職員も参加し意見交換の場にし、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、サービスの向上に向けて行き来する事は行っていない。	○	市町村との連携を取り必要なサービスを必要な人が受けられるよう、市の担当者(元気おとしより課)との連携を図る。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を理解し実際に成年後見人制度を活用している入居者様もいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各機関の研修などに自発的に参加し虐待の「意味」を知り、防止に努めている。		ベッド柵の使用方法などはご家族に同意を頂いている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族から不安や疑問に感じている事を聞き、分かりやすく説明し、安心して頂けるまで時間を掛け対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでそうした機会を設けてはいなかった。	○ 施設での生活を送る中で、不満などが中々言えない環境を作らないように、入居者様に声掛けをし、気持ちを伝えてもらえるような環境をつくりたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設の情報を家族にお伝えする為、毎月「そよ風新聞」という施設便りを発行している。郵送する際には、毎月の金銭管理表や近況を記載した文書を同封し、報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を設けてはいないが、面会時などでそうした意見が出た場合、その都度傾聴し、解決に向け管理者・職員が話し合い改善に向け努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、グループホーム会議を行い業務内容の提案や、改善に向けての話し合いなどを行っている。また、無記名による目安箱を設置し、職員からの意見が出し易い環境を作っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の要望には、外出レクや外食レクなど、外にでる機会を多くして欲しいと良く聞いているので、こうした要望に応える為、外に出る時間帯には、通常の勤務体勢より1名～2名の職員を多く配置している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や施設内外の異動等で職員が代わる場合はこれまでも何度かあったが、シフト作成を行う際は、馴染みの職員が1名は出勤するような配慮は行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を受ける機会の確保をし、一部の職員は研修に参加しているが、ローテーション勤務上参加の参加の機会が無い職員もいる。その為、研修報告書での享有に努めている。</p>	○	<p>全ての職員が段階に応じて育成する為の研修会の参加する機会の確保が望まれる。また、外部のみならず施設内での勉強会なども工夫し、開催が必要と認識している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会(東毛ブロック)の研修には、毎回参加し情報交換や交流を深めている。相互訪問については、会社内での別事業所への訪問は行っているが、他の法人の事業所の訪問まではできていない。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は職員の経験や立場を踏まえ、職員から悩みを聴取し、話を聞く努力を日常的に行っており、管理者・職員の相互が理解しあおうとする姿勢がある。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>業務実績を的確に把握する為、定期的に個人の目標を検証する機会を設けている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至る以前からホームに来所していただき、ご本人の話を伺い、理解し、信頼関係を構築する事に努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が気がかりな介護の方法や不安に思う事柄を聴き入れ、納得して頂けるまで十分な話し合いを行う。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずしも入居をを勧めるのではなく、利用を希望する方の状態や家族の意見を聞き、その利用者希望者に合った、サービスが提供出来るように努める。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度か施設の見学に来て頂き、既に入居されている方との対話等をして頂き、どんな方々が入所しているのかを、御本人に知って頂く。また、心配を感じる方には、2～3日程、体験で寝泊りをして頂き施設の様子をしって頂く。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で、何度も感情が不安定になられる入居者様もいらっしゃるが、楽しい気持ちの時は一緒に喜びを分かち合い、悲しい時は励ましながら、気分を落ち着かせる為に話題を変えるなどの対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態が良くなった時など、喜びを分かち合っている。今まで生活を共にしてきた御家族の意見は重要であるので、より良いケアの実践を図る為、意見交換を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族や入居者様からの話を聞いたり、話している様子を見て、お互いの距離の理解に努め対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人や親戚など、大切な人達が面会に来られた時、また次も来たいと思って頂けるよう、来よされ易い雰囲気や対応に努める。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ダイニングの席の考慮をして、中の良い人は近くにしたり気の合わない人は席を離すなど対応する。皆で出来るレクをして、入居者様同士が仲を深めてもらえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までは、サービス利用後(契約)が終了した場合、継続的な係りを必要とするケースは無かったが、家族より情報の提供等の申し出があれば、それに応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際、基本情報やアセスメントシートにて利用者の状態や本人や家族の要望を把握した上で、介護方針を決定している。	○	入居者の状態の変化や心境の変化に即応し、より一層、希望に沿うよう努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活暦が把握出来るよう基本情報シートを作成している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録、バイタル表の記入により、入居者様の状態が把握出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見の他、入居者・家族・必要な関係者から意見を基にし会議で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っており、面会時以外にも必要に応じて家族からの意向を踏まえ、新しい計画を作成している。また、主治医からの意見を参考にし計画作成に取り入れる事もある。	○	入居者の状態に変化があった場合は3ヶ月が経っていないなくても、現状に即した新たな計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日々の様子の中で気付いた事を、ユニット会議で話し合い、共通の認識とした上で介護計画作成時に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人記録の他、ケアプランの実施、特記事項なども記入し、情報の共有を行っている。また、申し送りノートなどでも共有している。	○	個人別のノートを作り、気付いたこと、最近の様子など細かく記入出来るようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣にある福祉大学の学生さんを定期的に受入れ、入居者様と外部の方との関わる機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向で、マッサージや鍼灸の先生が来所した際、入居中の様子を伝え、治療を行えるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を利用している入居者様は、司法書士の方が担当されており、職員は担当の司法書士の方と連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼鏡を新しくしたいという入居者様には眼科医に、入歯が合わない入居者様には訪問歯科医にと、各医療機関との連携は構築されつつある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期ケアの体制が整っていない為、施設での対応が困難になる事が必ずある。その際、家族や本人が焦る事が無いよう、早い段階から、施設での状態の変化とそれに対し、職員がどう取り組んでいるかを報告している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に一人ひとりの存在を尊重し、敬うようにしている。個人情報の管理については、鍵の掛かる引き出しに保管し施錠を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者にあったケアの方向性をアセスメントやカンファレンスなどで導き、本人の意思を踏まえるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のそれぞれのペースを大事にし、自由に過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室にお連れする事までは出来ていないが、定期的に来所する馴染みの訪問理容師が2名いるので、入居者様好みを把握して頂いている。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の準備など、利用者様と一緒に準備して頂いている。出来る入居者様には後片付けもお願いしている。	○ 食事の摂取量が少ない入居者様にも楽しんで頂けるよう、職員で意見を出し合い楽しみの場になるよう努力している。(2ヶ月に1回調理レクの実施)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他の入居者様との係りや、病気の面から希望する物を全て提供できる状態では無い。	主治医の意見を踏まえ、可能であれば好みのもを提供し、日常的のもっと楽しめるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレで見守り、また尿意があるが、誘導が必要な方は、その都度対応している。尿意が曖昧な方は定期的にまた必要に応じて誘導・排泄ケアを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することに抵抗のある方は1日置きにしている。また、入浴日に拒否がある場合には無理強いせず、入浴したい日に入ってもらく。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	麻痺のある入居者様は誤嚥がないよう、夕食後1時間してから、臥床して頂く。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物を育てるのが好きな方にはユニット内で育てている植物の水遣り等をお願いしている。また、洗濯物を畳むことが出来る方には、お願いをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預り金(おこづかい)は施設側で預かり金庫で保管し、必要な時には家族や本人にもお渡ししている。普段からお金を持っていたいという方には、一部お渡しもしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。また、外出レクや外食レクなど、外に出る機会を多く作るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の意見を聞き、その意見を踏まえて外出のレクを企画している。	○	現状、入居者様の意向に対し、全て対応した企画が出来ているとは言えない為、柔軟な対応が出来るようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいという入居者様に対しては、家族とも協議しながらではあるが、状況に応じて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や友人が来所された際は、自室でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車イスから立ち上がろうとすてしまう方には、拘束をしなくても、安全なように、常に目が届き、駆けつけられる距離に職員がいるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設に面した通りには、車の交通量が多い道路がある為、安全を配慮して、エレベーターと階段には施錠がしてある。	○	帰宅願望が強い方もおり、高層の施設の為、施錠おいう対応を取っているが、閉鎖的にならないよう、散歩等、外に出る機会を増やしていった。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の居室に入る場合は必ずノックをしたり声掛けを行っている。夜間帯巡視等で居室を訪室する際は、物音をたてないよう、注意しながら、安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	口に入れると危険な物などは机の引出しにしまっておき、施錠し保管してある。包丁や洗剤などは、入居者様の手の届かない高い位置の棚にしまっておくなどして危険を防いでいる。		食べ物などを置いておくと、食べてしまう方がいる為、目につくところには、置かないように注意している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命救急講習への参加や非難訓練を行い、緊急時に対応できるようにしている。また、誤薬がないよう、薬を準備する時は、複数の職員の確認をし、準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時にどのように対応するかマニュアルがある。	○	マニュアルがあるだけでは不安な面もあるので、新しく入職した職員にも、救命救急の講習を受講する機会を作っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施しているが地域住民が協力する体制とは言い難い。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	月に1回グループホーム会議やユニット会議を行いその時々で入居者一人ひとりについて話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタル測定と、1回の検温・排泄確認を行っている。何か気が付いた時には申し送りを行い、職員間で連携し話し合いを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の処方箋をファイルにまとめ、職員は薬の理解に努めている。		入居者様の健康上の状態によって服薬している薬を継続しても良い物かどうか、という事に気付く努力をし、そうした際は直ちに医師や薬剤師に相談し、服薬の管理を行ってきた。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い、便秘気味の入居者様にはヨーグルトなどの乳製品を摂取して頂いている		かかり付け医より、運動不足が原因と診断された場合には、職員が話し合い、体を動かす為のレク等を検討し実践している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、週に2回入歯洗浄を行っている。歯磨きが出来ない方には、滅菌ガーゼを使用し口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を決め、栄養バランスを考えて食事を提供している。糖尿病など食事量制限のある方は、かかりつけ医の指示通り行っている。水分摂取がきちんと出来るように、まめにお茶の摂取量をチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、スタッフは目を通してしている。また、それに基づき執行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は毎日消毒し、テーブルは消毒スプレーを使用し拭いている。食材は賞味期限に注意し使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭菜園では野菜を育てていない時期には、季節のお花を植え、季節感を演出している。玄関等が綺麗になっているよう職員が毎日掃除している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には外出レクや季節毎の行事を行ったときの写真を展示している。また、季節にあった装飾を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の居室は全室個室である。ダイニングも自由に過ごして頂き、他の入居者様とお茶を飲みながら会話したりテレビを観たりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた家具やたんすを持ちこんで頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行っている。温度調整も適温になるよう心がけ調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室個室になっており、入居者様は自由に過ごされている。ダイニング居室はバリアフリーになっているが、風呂場の脱衣室には段差がある為、職員はつまづき等に注意を払っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には、顔写真と名前が貼ってあり自分の居室が分かるように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の花壇を利用し、花や野菜などの栽培を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○全ての入居者が安心して生活が送れるよう、職員が傍につき添う